

嬰鳴館遺草

五

122
ホ
3-5



小尾悦太郎氏寄贈

嘯鳴館遺草卷第五

清海〜姉夫との書

つゝ〜その中と云成出流り所大概多佐夫へ少人
知通通の流り優美なるもの稀〜と五位左殿の
士へ人々識人へ勝進流りせよと云る人へ不流出
れり此の流り難く成り月並き所見は流り成り度との
言ひしに依り仕外先以高貴の流り分りて一極に流り
流心外流り必竟流り此好字に流り書の流り感心仕外
是流り流り〜所見流り〜と云り〜



A122
下
3-5

ゆるた妻同よなひ中へ振るや上なる教くくく味
 此用拵て下り先つていしやわいよのて子王侯のきき
 るるより下ハ山登細武の車機よむまてしげ世よれ
 ゆゆるまは候まてしよのて人へ成まかろくく
 赤子のうらりの混く池くはぎやうり外ハきくく
 ゆるた父母がうらりくく多ひくくくく乳とくく
 いくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 のうらりくくくくくくくくくくくくくくく
 なる教くくくくくくくくくくくくくくく
 年くくくくくくくくくくくくくくくくく

父母足身と種も家傳ハハ福の人かぶつてくくく
 中習つて月日と指くくくくくくくくくくく
 あくくくくくくくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくくくくくく
 間もあへんくくくくくくくくくくく
 十五六くくくくくくくくくくくくくく
 有合くくくくくくくくくくくくくく
 人くくくくくくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくくくくく
 けくくくくくくくくくくくくくく
 けくくくくくくくくくくくくくく

毎へもるれ幼少の時より御もあをいして有るはねの
 父母兄弟探る目といふは齒とていふは戒免して
 切にするそのそとせあそのぞとていふはねの
 自然と是を苦とていふは大人成るる業といふ
 智人の言とていふ目教と悟り成るる業といふ
 利あるるも悪徳あるるも人間お恋の勤らぬ
 身を中は福徳厚く受給て生れぬ人におん
 是くはよりつとれは智學同探は志とていふ
 兼漢とぬは講釋とていふ少く完全点あるる

以て月とていふは月とおまよりとていふ人も教
 辛苦の方とていふ自身と好むはあつは父母兄弟
 のいと難き徳也徳もは親他人の交りも度
 ぬは堪忍用捨とていふ智して飢渴の難儀とて
 身とていふ人徳の厚薄人々の苦楽とていふ
 賢劣あるるとていふ教ひもいふ教等指南とていふ
 交りあるる世の安否危存とていふ理とていふ
 身とていふ徳も無きかぬ自然とていふ信用とてい
 ぬる徳も名譽の人とおま兼徳のまうとていふ位貴
 人のあつても烟候は治は安民の徳とていふ被りも徳

お成りゆりてを、想ふ儀に作業とて、越古古原の
 成不ぬる生れのまゝ、おしよ、切心にお成りゆりて、今
 無く、俄にお成りゆりて、古の帝王、賢者として、先代
 とし、ゆる、極姫のゆり、教と、被けせられ、出づ、一日より
 賢相輔佐の大臣、忠信、篤教の侍臣、左右、お成りゆり、
 甚し、て、起居、勤静、教、戒り、誦めたり、て、
 父母、兄弟、のや、ち、り、れ、ち、り、打、く、く、れ、と、お、も、て
 せ、す、分の、油、ひ、き、く、教、を、看、て、お、し、り、月、未、の、や、
 而、も、と、徳、を、お、も、り、け、り、て、お、も、り、思、ふ、れ、ぬ、を、
 未、照、之、の、清、初、より、千、幸、万、苦、と、お、成、り、ゆ、る、天、下、

の主と成り、(俄に)誰も信も傳へぬ、り、や、り、の、ま、を、在、り、
 然、る、が、い、そ、目、出、度、清、代、と、好、く、清、代、孫、清、長、と、お、も、
 業、り、ゆ、り、て、在、り、れ、世、の、時、を、推、考、へ、り、不、良、宮、國、主、
 城、主、の、面、く、其、先、祖、と、お、も、り、傳、へ、り、ぬ、と、
 幸、苦、艱、難、を、お、も、り、俄、に、云、渡、と、純、く、お、も、り、て、お、も、り、
 未、照、官、の、清、初、より、千、幸、万、苦、と、お、成、り、ゆ、る、天、下、
 以、て、四、海、太、平、ふ、り、院、仕、り、ち、り、袋、小、色、と、お、も、り、刀、刀、の、鞘、よ、
 納、り、た、よ、あ、り、よ、と、幸、苦、を、お、も、り、世、移、り、お、も、り、武、臣、の、
 安、樂、世、界、よ、お、も、り、ぬ、人、の、下、下、を、何、の、思、れ、氣、苦、し、
 ち、り、次、身、く、た、臨、堂、安、逸、の、風、俗、と、お、成、り、ゆ、る、天、下、

後の月よりのお候きんしんまき出まひまゝの日より
 お戻りたあままきより福の人の唯つあま横煙と煙の
 追従とまに致し新妻めりまゝのまき有まゝの
 大まゝのまきや解福あまのまき有まゝの
 柳だまよりお婦人のまきのまは月後お面を和け
 まゝのまきまゝのまきぬれまゝのまきまゝのまき
 人志の作業つ村世まきとまきまきまゝのまきまゝのまき
 まゝのまきまゝのまきまゝのまきまゝのまきまゝのまき
 給へはまきと感得あまのまきまゝのまきまゝのまき
 大儀若者のまきまゝのまきまゝのまきまゝのまきまゝのまき

しま存一かりあま恭遜謙讓の姿ありあま
 和まへ下人臣の行儀とまゝの夜後立派よまゝの
 閉口依改まゝ是非若愚の妙法ありまゝのまきまゝのまき
 名と致しまゝのまきまゝのまきまゝのまきまゝのまき
 出まへる日より人のまゝのまきまゝのまきまゝのまき
 まゝのまきまゝのまきまゝのまきまゝのまきまゝのまき
 給へる人懐き態あま存まゝのまきまゝのまきまゝのまき
 使まゝのまきまゝのまきまゝのまきまゝのまきまゝのまき
 まゝのまきまゝのまきまゝのまきまゝのまきまゝのまき
 存まゝのまきまゝのまきまゝのまきまゝのまきまゝのまき

形をさるるりよるる礼世の時人きとと御起と人小
 我もつ流た不あら身の身の上とて是程幾持の横姫
 成て大切なるたぐ物とて無へまつ物を流
 死して人の心と取不中りぬ人御中の陽所とて
 身の代りよる形ぬとてさ理と存一と中よと
 名將賢とてつたえれぬの人ハ再分け御無事人小
 猪達我一切の命才是とて人何とてりるぬ
 とのこり所と流とるぬとて家来眷属とてと
 子是のやく大切なる一と子是の物とて必那の
 主と形これ何人老義と切と長と人高と貴職ととと

扱帝無へ身よとて主宝と取れ月と人へとと人ハ
 一身の首よりと大切と取一子是の力た流り老の
 為必のぬと身と老取とと不存老ふ御とと矢わり
 て老の流りととと文と人へきと時人帝と持て流と
 老訓とと一老と取とては御一我ハ老長ととる
 候一と老長とととと老の老とてのよ本ととととと
 中とと老の老とととと老の横老候ととととととと
 友と人生れ出と人とととと老と老ととととととと
 へとと福徳たたくて生れ月とととととととととと
 老ととととととととととととととととととととと

此より人を理する人かゆる一なりて生るは理れ
ふすれ付行率て生とあ来よふかも今くいれ
れ生となれぬさるるの堪忍苦方と致し一
死を執念に拘られ心力と致し一すれぬん中より
名譽利喜の人も多く出来しゆその堪忍理より
貴人と生れぬん中より心勞苦の人も人よこを
思慮忍難も人よこを我れ家よし一生人歎とすれり
實知有徳のまへん稀歎とのとおんしゆを極むれぬん
我れ我よし歎しゆ辛苦はいへぬとのす極におは
ゆぬ人となれぬんとの執念としてしゆわたり

玉ひしゆもありて我れ我より名譽忍難と致し
ゆぬん我れよし一生も我一生よしゆれしゆん
もさる人の名譽忍難よし終るゆぬ我れよし生る
承きて生る人の一生因縁よし我身はるる承きお
よふゆし是と行戸飛肉とも中 碎生身死ともあり
たききんんしゆ組しゆまもとも極めしゆたれる
赤子の上下恙する因縁をせとさしゆんか是非
善惡の妙法より及ぬゆれ忍候る人出果報目を度
人あり生れ出まひ又まよふて福業人かも出勝色
す極のたすしゆ生入るゆれり極めの切向よ及

此よりゆえと志す人より打たる事一々おかげた煙も
人も生れに下り月も晒され風も海れ浪も自然の
を暖くも身骨が振ひゆく人も病壯健も生ずるも
申すれは是れ人よりおん生れてよりけ振ひをうけ
あるこれ一一家も力を自然と奪くそのふ境へ
あることよくきくものいふ言はれ人何事をも
少く用事治すうく取扱ひ不ゆく人も成於ふぬとい
まつ習烟と油の取れぬあつりゆく人も職たふ人
さうく親のまねと取れゆく初まより足煙に彼の煙
ひゆかよつゆく長弓の子も箕と作り長治の子も

取作り煙いゆり自然より生れ取れは子はよま業と
為取度なゆりゆく親の言葉と取れゆくも
ゆりゆき然れ程よくゆくもしてゆりゆくは心の極む
ゆるい取れは心の取度よくゆくもゆりゆくは己己よ中勤で
は燃ゆり取れ上をな侮りもよく上り取れゆくも
ある幼年より親の取扱ひも吾造作して彼振ひたま
して勢いよく退屈大儀といゆくと名がゆりは入るも
ゆりゆきの取れ業と次ゆく苦勞程儀とゆりゆき親習ひ
ゆりゆきの取れ面白くゆくゆくゆくはせか
ゆりゆきの取れはゆくゆくゆくはゆくゆくゆくゆく

上より下へおぼしめし侍従之性難別とたりし事
 うへにたへ暖よ是て物よ事急事急をいふくせし之
 事よ事いひ生れ落しりおぼしめし殿ひてつりし事
 と事要よ救しゆゆ人おぼしめし事難をゆひ事
 難き事ゆひ事下賤の身分より遠く群長た
 るよ圍繞され茶氏の上よ事立ゆ事ゆ事身ゆゆ
 ゆゆ人ゆひ目録に押つけ押下けし取扱ゆ事海ハ
 勿論無く機姫と何ゆ程能取ゆ事ゆゆ事著ゆ事
 事ゆゆゆゆゆ併此ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 以ゆゆの同遠ゆゆおぼしめしゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

大切なるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 とゆゆゆゆ侍従汁ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 内ゆゆゆゆおぼしめしゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 先ゆゆゆゆゆ色ゆゆゆゆの機姫ゆゆゆゆゆゆ
 尾取ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 ゆゆゆゆ思ふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 事ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 のゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 事ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 庭の機姫ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

とと虫のそとを活中とすれ毎虫のそと少くとも
勝るおんそくゆ成よ古今の名將使ふもしく程の
人への苦口と成く人と秘教致されゆ甘きと
家来と成し候われゆのそと但一人徳とすお
れ我と我同志の間柄とすも人の言ふとすれぬ
目ふとすれぬと檄候不様よ苦々んすれぬと
そとすれぬとすれぬの威ハ雷達よりと忠告のふ
西をゆぬんすれぬとすれぬの言ふとすれぬに消れせず
すれぬのふとすれぬとすれぬの言ふとすれぬに消れせず
の程有たふとすれぬとすれぬの言ふとすれぬに消れせず

此附らぬとすれぬとすれぬの言ふとすれぬに消れせず
此修めぬとすれぬとすれぬの言ふとすれぬに消れせず
このふとすれぬとすれぬの言ふとすれぬに消れせず

○人の側少く程角の座よとのと一人の言ふとすれぬに消れせず
とすれぬとすれぬの言ふとすれぬに消れせず
此安寝とすれぬとすれぬの言ふとすれぬに消れせず
とすれぬとすれぬの言ふとすれぬに消れせず
此の言ふとすれぬとすれぬの言ふとすれぬに消れせず
教多くとすれぬとすれぬの言ふとすれぬに消れせず
此れ程の人の言ふとすれぬとすれぬの言ふとすれぬに消れせず

此威勢もよくも不素條より片一内家中に坐せども
 かくしりの上起しし一将と存なりし誰のひしり
 不子のとのい有るや数り悪を弱きもの時人の噂も
 取りしりの有るや或る人坐る是向好ひしてかく
 せり出ゆるのにも不及理のこも一家中致遠越ゆる月
 家及も存ゆるを惣角少く謙淡くともは取れりる
 理もかりてしり合さくこすめゆる備忘と括さ
 大学の謙轉と括りしり所二座を取ゆる内いり近席
 ともぬをたせりゆる目と舞一せりゆるまよりいり
 嬉ひはお謙轉しりそのいり少く大毒ともちり坐

不中ゆる月弥ふる理も片のり筆信筆花と括しり中
 出ゆる惣角家中の迷惑不夫形ゆる月大臣を又かく
 祈込敷しりちりして座少安らゆるりて又或備忘と
 括し講終とぬ敷ゆる初程又目と舞一てりり
 とも甚ふあんの容子に座ゆる右く備忘も片括し海
 ゆる持しりかよ面ゆるる一向退席の舞と括り月家長
 たりとも敷大悦もつ銀くしり括しり劍よりさか起ゆる月
 能程し薄と休中ゆる人括り面ゆるりり何大儀より
 可有るゆるる先とおぬいりて度水度りの候るまよりい
 ちり講目と括り急さゆる月次中も座理と合点も参り

高々い峰征りわね様の主人はお成り由之而初の備志
はらへ六ヶ敷自かう多年の精をの功とをを産さうりこ
向へともいぬわ敷度微妙も及程と細くも説たるもて
て有る小孩をよりわく愛はねた耳より人の心は心
一向深も終え不中り月迄産と敷致をりゆ成候よ
と月後の備志は定而功志もし書面も色折候も
倉得の相成り翁と大さやうすりりり海月お成
りも存し及程色分りより実めり面もいなるも
とりのりなるおつと統氣をさうとちぬ人の嬉しお成
りわくはなる柔く湯粥鞠能難ふりてとちぬ肉の

出産してサもたま及と存りぬ人面もくお成りて
人懐くもいなるもよふつてき産もと下の子が嬉し
さうと下の子が嬉しよさうもて嬉しが下の子お成りたが
上の子お成りしる巻角巻の汁りる長多化おとす我
主人の嬉しとす家来りもつ家来が嬉しよとさる家
家来が嬉しとす主人の先つとる人の嬉しお成りるも
嬉し人の嬉しとさうもつたお人敷りてとさるりる
おとすもとさる人々のさかるとお成りりつ人のん持
本より産外若悪利害と無入りの利害と能成り喻り
しとの成りて無入るとはしとさるりるぬ貴親と成りぬ誰

此書觀より新り度その内より才力中の差ありて有るは此
 書に於ては初巻をひけり其の分りぬ程少くおぼゆる
 お遺言に在り組一まゝとて是れあり此中元お遺言の
 人挿言よりなり他所他處のへりては注文に付ひりて
 此書にひりて成出りてなり序の序とてなりし初よりぬ
 りてお遺言の先んたなりしなりて此の妙用とてなり
 而して座の天子孤世座の必しる陰陽道地の功益助とて
 此より必しりて子に秘候と此座の四海と治りて必しり
 願ひて家を治りて人と此座の必しりて活なりてなり
 信りて持持仲るなりと此座の必しりての御とゆなりしなり

ちいさくしりて心の操り一身のまゝなりぬた手是と
 座のひりてなりぬりぬり死しとてはれなり手是と大指
 針よりなり手是中指お指のち指ひと座のひりぬりぬり
 たりとて時ひりぬりなりしなりなりなり此座の必しり
 多く此座の和なりなりなりなりなり名の武指と勢
 多し座のひりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり
 武指坊とてなりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり
 座のひりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり
 朱照なりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり
 つ統た来とて此座の他山の石以て底とてなりしなりしなりし

親王の内上とては師長と名を稱するを在りては物澤り
 ぬと書傳へ稱のふりてやうと書傳へるるに於ては
 先づ殿と名を置かば唯は殿なりとまうりて人の家長亦
 内用三人ありては兼ては名をなくハ外より師道と
 沙羅人と稱する及ては名をなくハ外より師道と
 種屋耐と名をなくハ外より師道と

○先出く既述院より所免南内家沖あり此種と名を
 免院と名を置かば唯は院なりとまうりて人の家長亦
 内用三人ありては兼ては名をなくハ外より師道と
 沙羅人と稱する及ては名をなくハ外より師道と
 種屋耐と名をなくハ外より師道と

子と名を置かば唯は子なりとまうりて人の家長亦
 内用三人ありては兼ては名をなくハ外より師道と
 沙羅人と稱する及ては名をなくハ外より師道と
 種屋耐と名をなくハ外より師道と

中の不徳なるを我々の人の善くする人に見
 下したる先ず我々を離濟す一歩の歩むに我々の死
 及理ともやゆる遠くしての有りくを我々と思れ其
 を心ゆくも徳謙の徳と称しゆるるる心さめて
 又心きたることも死と為す大相す唱へた、俗人
 我々の一やりの自己の子物とゆるるる人の善く
 所よともしたる人、ゆるるる吾の善くする
 吾々の一極する程爲の之程よおゆるるる人、ゆるるる
 彼我々の善くする有りたる人も善くする人の
 善くする人も善くする人、おゆるるるるるるるるるるる

種一は粒よりゆるるるりゆるるるる粒万粒もとゆるるる
 ゆるるる先ずゆるるるゆるるる但しゆるるるゆるるるゆるるる
 ま計しゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるる
 ゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるる
 ゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるる
 ゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるる
 ゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるる
 ゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるる
 ゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるる
 ゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるる
 ゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるる
 ゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるるゆるるる

所長は用ひておぼろの由存れ志志とてハ初より
 存せり外より死志成りしとて持通しゆりて存れ志
 とてハ初より平生所めりてハ仕立おぼろとて
 者の善化め成た目まぬ人とて事ありてハ初より
 如きの人ありてハ但一十年の時ハ不都合成りしと
 有るゆゆ先成者とて良師良友の遇しを志しと改め
 る所の士とて然りゆ人も数多有るゆり由存れ志とて
 廣く人々と奉用せられ日少人のあることお失とて
 我れゆり少くなくゆゆ先成りてハ人の性少く人の
 心もゆゆ先成りてハ扱不都合と敷おぼろと善と妨け

人も多き物お由存れ志とてハ解のち死人と所長よ
 きて人とて成りてハ世ハ神より伝作もつき相違し
 成訓とて用致ゆり定りたるゆりてハ後ハおつ事
 中も不都合の由存れ志とて平生躬行正教とてハ内中
 生れつきし窮屈片草とてハ人の性少く性致ゆゆ先
 とてハ初より扱とて扱とてハ初より扱とてハ初より
 作りゆゆ先成りてハ百姓の業方根と作りゆゆ
 ありてハ初より扱とて扱とてハ初より扱とてハ初より
 扱とてハ初より扱とて扱とてハ初より扱とてハ初より
 のけがとてハ初より扱とて扱とてハ初より扱とてハ初より

一世の豪傑と名所見有と云ふは但一有と云ふも
吾之少ゆる人々是非の夫の勿論有と云ふの云々
吾我用ひ短と持して行つて何事利益の云々
有と云ふは然らば門流と云ふ其師子と推する
ゆゑ又云々又云々又云々又云々又云々又云々
孰の人の少ゆる人々一極と云ふ書の云々漢と云々
法一極と云ふ非の夫と譯考云々唯と云々
何と云ひつてこの極と云ふは古の目録と云々
唯と云ふは佛家の法も四宗八宗と云々
と云ふと云ふ海佛性と云ふ有と云ふ有と云ふ傷と云ふ

釋と云ふは産ゆる者成徳行と云ふは極と云ふは必
と云ふは佛の修行次第佛性と云ふは修行の次第と云ふ
性生ると云ふは修行の次第と云ふは修行の次第と云ふ
然れども修行の次第と云ふは修行の次第と云ふ
是と云ふ人の徳と云ふは修行の次第と云ふは修行の次第
出揚と云ふは修行の次第と云ふは修行の次第と云ふ
一唱へると云ふは修行の次第と云ふは修行の次第と云ふ
私と云ふは修行の次第と云ふは修行の次第と云ふ
篤と云ふは修行の次第と云ふは修行の次第と云ふ
教化有と云ふは修行の次第と云ふは修行の次第と云ふ

出府作あそびに但一先ち遊々好客あつた也海游する
人として肝長は由立お成りあつたなり花葉好のきく
ぬり花かん救るあつたり花壇をゆつたり花用人の
花畑あつ牡丹菊葉葉枯枝取也其花を咲かすなり
ゆつたりと生花は用の時の中を不中とあつたりと
ぬりとも生花は用の中を不中とあつたりと
行十本とて花畑の中を不中とあつたりと
ゆつたりと花畑の中を不中とあつたりと
葉つともゆつたりと花畑の中を不中とあつたりと
存人のぬりと花畑の中を不中とあつたりと

悪人の滅一花畑の中を不中とあつたりと
儀とて花畑の中を不中とあつたりと
宗の宗師宗流の肉は内は法華と信一花畑の中を
不中とあつたりと花畑の中を不中とあつたりと
法華佛は花畑の中を不中とあつたりと
花畑の中を不中とあつたりと花畑の中を不中とあつたりと
宗の人救る死する三日目あつたりと花畑の中を
不中とあつたりと花畑の中を不中とあつたりと
花畑の中を不中とあつたりと花畑の中を不中とあつたりと

大に性生成就一居々との有るは生現立け此の身、
 此身を然りて極に法華佛よ而為を種々生ずるに
 此時空界大なる業とと換一翻く若く業業と云ふ
 方後るれん殊絶の事と云ふ事と云ふは然たといふ為
 大若業の人と云ふ也我祖師保空云一の二般記請と
 有き純宗と念一ん志とむと極生性生と云ぬ
 孫元へ引寄られり何法絶め来以て其の不教念と
 存りたりて悪徳なりと云ふく性生極業成就といふ
 云ふ事と云ふは此大辨天上の備えり皆は淨土宗
 空界と一般の尺蠖と云ふは古今の法華と法と云ふ

何人何れも先聖後聖の教と云ふ宗教一なるに
 有りたるは此孔孟の宗を大遠くを我流義の
 祖の志と云ふ遠く有りて有りて何れを奪ひぬ
 候へば是れ有りて人々の志と云ふは此の統一
 生れり人の子弟よしと云ふは是れを手に生れり
 とのも幸よ切なり書物と讀むは秦漢以後の
 徳書程子朱子等の志と何れ仁と徳徳徳の尺蠖
 と云ふは此の志と云ふは此の志と云ふは此の志と云ふは
 此の志と云ふは此の志と云ふは此の志と云ふは
 此の志と云ふは此の志と云ふは此の志と云ふは
 此の志と云ふは此の志と云ふは此の志と云ふは

として考へぬべし概たる概とを種成るべしとたゞ有之
 とのちをんがううとて月代判りや財の長いのち
 親のしを並とてんくし是非を執りひかる大百透
 成仕出〜なり親のちをん人業事のうけよりと傳り
 概ひん致る致る必竟宗簿と流のうを傳へ概を徹座
 の作し人有之る致る宗脈は〜と〜流のし傳り
 少佐不及く所を傳りとも種信人〜存ん人との宗致
 概を徹座をこれとて〜能く致りて人成と善ふ向て
 中〜りる善ふと善人程朱學とて〜ひん人傳り
 程朱學所ふ善ふと仁舟祖株と好む人への概は死

仁と由世傳り善ふと善へて善も善も人成り〜とて
 うんゆ善ふと善あり概とを徹座とてひん人傳り
 善〜と我執つり〜人と為る化不仕り善善の善同
 善〜と善なる概ととも昨日孔聖より善〜概り善
 善〜ととも善〜ひん古賢先業〜とも是非非傳り
 の善〜ひん人傳り概と〜と〜ひん先善〜善〜大師
 師長の善志善事の善善片見行善善〜善〜流善
 善〜善〜善〜善の善概興之人善善善〜善〜
 通〜善〜人と親切〜善〜善〜の善〜とも
 行善善の善善の〜と〜善〜善〜と善善〜善

何んか人と先師家才の作は定二の事なる若く若く
我之習ひ彼習ひんかしまより追く成立んかやそ中
より一層の大業無才と出来ず申す然らば定二
教化は向ひて極くと申す能く為るはどの事か已て人
とのちりとも得るも驕傲ふ慕るる人と何れか人必
は是を為すのみ此處は極と申す候なり

於りてふ美長の巻

君侯のちりて弱年のちりて其の忠孝潔とてわく
此元うひり成りて行々名譽の若く作きりれ成りての
そのちりて成りて人成感んかりてわく得る事なり通
つ必の治乱美氏の事又其の忠孝人の徳不世と知り
けりて及べりて人たうなりて千事千事何れ何れ
うるへ上て人の宜くわく時へそのちりてわく
べきに道理の事なき成りて及べりて人た人の若の
人の非と格すく有るは其の事なりて其の徳を人何れ
若く是唯忠孝と成りて成りてその上の忠孝成りて

抑良師良友とてそぞろを交遊の二河をめぐりては是又
吾益の人のおれゆりのそぞろ怪き身方の人の師匠への
者々我友同そぞろ交遊—朋友への者々心算く味合
も致しゆる方へそぞろゆるともゆるとゆると師匠もしゆり
友別と致し—朋友も吾々を是非と争ひゆる者
よまゆりゆる人も我も何んゆるとも風よ移り學問
ゆりゆりおれゆりのそぞろ人へゆりてきたて人の師範
者々々名目いそやうてえれぬた必竟主々家來ゆて
君少の何とゆり怪悔の心持も有とく長ふ元より畏敬
のふ有とゆりまゆり—十のきり二三とまゆりて

ゆりゆりのそぞろ海へてまゆりゆるとおれゆり身も
ま同別まゆるとも種々ゆりゆりゆりのゆりゆりゆり
存しゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
是より主君のまゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
まゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
存ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
実ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
常礼老極とてゆり—師匠の師匠まゆりゆりゆりゆり
とゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

續法はよく抑りて其の事産より其の成りてこれ
 清くよりより仕舞はせ定りたる文と編一
 向へ成るにこれ等の無差の礼法と共いしる故
 まじりしつゝ事と事と一歟一を余はりのつゝ言
 向も中上ぬりてし極成姿とて人老いし少書
 薄釋と申おもしたとん河多事いんはりて少一の
 益も無く深は教武通りゆりゆりな人とな海する
 と申ぬり向の年時おあ身かおあ性おあ考
 へいられしと向へ受用の形りあき極中と極成要
 して此面の我理とたうすあへんといふ有るのみ

此在り元来其後成る方といふは獨中より力とてと
 吾も其向と申お人唯を極してしりすも彼をぬりて
 閑して居るとて汁出ぬ成るをぢりてしりすも
 面白くもせりてと吾もさうりて極成りたる在り
 但し此姿は大臣主職の人能く有るは自身より
 まづ其姿は何とて同答極極と致してせとあり
 まじりて人未くの事とて人にお成るは其の姿と
 がぬきし其成るもそのもたぬて流家の招と清りて
 其の無調法師の言似と致りて又言て其も何れも
 親しき中述りて其の事とて其も何れも其も

ゆし修むい悪老など及ひ不中不くよ上達と有るく
遠より一家の政りも厚く人々捉拔致し其程の
方々も遠く有るい悪老などおに知悪も等しく
ゆるん論より控按り中環の通り修むる若るい致し
是えゆるふと得るさゆる扱名の叙しその内より人時とて人
詩作のあそひ文章の集しとるもと有るい此又
是問のつりゆるんまよりいりつとれり義理は面白き
ものともにお成ゆるり自然と成るは然り中環之報
りて人先を極はまを不用少く成るは新し致しゆるん
是問くくくく各目付しとりよとるも是首目のま入

あし海一さりゆ花と不少極と存る必要ぬりん扱の
ふり程なと存る但しそん長をぶけの不測法ある
り若るは存る中環又特激る徳の人へといはれ漢有る
度より存るは上

○追く出致すゆり扱ゆるし篤と出致考ら成るは免角上下
一和ふ致して人行りゆりも不測法ゆるん行華つれ致し扱と
はそゆるゆるは出致と通る色ゆるん難事は三月悪老へ及
出致漢ゆるのゆり致事ゆる成程上下つれふ致ゆる善致
成然りてゆるりり古今はとお見ふり但し是は極定
此より人々と彌相との徳量ふりりゆるり勿論はは是無烟

法悪味づけの了簡は、ちかすゆるる先、人交り、夫
賤を少志、思の交を、先施と、有之、先施と、人
先づ施すと、候て、交接、向と、先、先、我、方、より
志、希、志、む、け、を、め、の、産、人、より、我、を、れ、く、る、ぬ、人
先づ、我、方、より、我、と、人、より、致、連、く、る、ぬ、人、先、我、方
より、致、し、希、身、の、人、の、我、よ、死、執、し、る、ぬ、人、我、先、人、よ
と、死、執、に、致、し、る、ぬ、人、主、願、に、の、格、格、格、も、よ
の、先、と、し、一、二、の、由、身、分、と、し、の、先、の、人、先、我、と、一、時、の
身、分、の、先、と、し、の、先、より、の、下、の、皆、後、と、し、の、先、の、先、
と、の、賤、より、上、より、下、より、下、より、上、の、徳、に、致、

ゆる、天地の、名、も、天、地、より、あ、る、ぬ、人、地、名、も、上、り
あ、る、ぬ、天、の、地、の、地、と、し、陰、陽、の、名、交、り、あ、る、ぬ、人、の、身
物、生、ま、る、に、致、し、る、ぬ、人、の、交、り、調、い、ぬ、人、も、つ、上、の、神、よ
り、あ、る、ぬ、人、た、と、し、の、賤、と、し、の、か、さ、さ、り、人、の、あ、へ、出
の、時、交、り、方、より、ま、つ、と、し、の、一、様、投、毎、く、ぬ、人、の、賤、と、し、
方、より、先、と、し、の、人、種、生、出、の、此、の、あ、り、て、先、の、人、の、
我、と、も、上、り、下、と、し、我、と、も、か、か、り、と、し、和、す、り、と、上、り、
下、と、し、我、と、も、か、か、り、と、し、の、人、情、の、賤、の、先、ま、り、
我、と、し、の、内、の、ま、り、の、年、の、内、の、愛、と、し、の、我、と、も、か、か、り、と、し、
あ、る、人、の、我、と、し、の、後、な、る、人、の、自、然、と、し、の、人、の、然、上、人、下

より親いよまぢをわひ切より相違くと得れし上より
先施さくをより先施さくわゆる下より親いよ
候より切より相違くと先施さくを先施し下より切
相違よみよとくくと相違候よしあひれずれ言月
元のまきん珠まの初め跡まきり不和のまよも
はなれおとし人様お救へり人の人様おれ人の
まのあよまより笑おれ候と相違く人の何れも
まの先施の徳厚くまよと相違よまより人の心と
能取く人のまよもくも親政大臣お梅お長と
まよのりよまよ上座ぬといまきり下より人柱戸係めと

相違して上より下のまよもまよと相違とまよも相違れ
然る時財けの家を執権と相違お病りゆ人のまよ
まよと相違さるん相違よおまよとまよとまよと有と
ゆゆる人よとまよと相違ぬと昨日と人我へ下合たる
まよも今より日よりの格お小引難れしおまよも相違お
あひれお感ともまよと相違ぬを相違ぬを月と月と
まよと相違ぬゆゆと相違と相違ゆまよとまよと
まよとまよと相違ぬお人強とまよと相違ぬと相違ぬ
あまへかよりまよゆゆ人下持の和と相違ぬりまよと相違ぬ
の人と相違ぬ相違ぬ相違ぬと相違ぬと相違ぬお相違

一時の失職下との差別をくくつて台と一合
 りし是非曲直を後為論判いづるの事世の
 所の下より達少人皆く五寸一尺の古月ととの成
 ずるを家老執政はあへて是出りし低頭束伏致し
 安否をく徳の外の一と云ふもくは是非の指名下知
 次者も畏りし退きしれ故官長と致すもくはくは
 りぬ人友長より裁りし後かして受く交ぬ友実因心
 又後一先ず官長と云ふもくは存るもくは流すもくは
 一尺も五分の魂とくはぬ人く後中人は是非と非と
 有くくはりのあれもくは私心榮志と云ふもくは私心

前途海との悪風は亦増長致し私心く人客く極くの
 背懐とく合りしうも向く人私事一内心く人くも
 笑ひり極まる悪懐と門出りし極く人志の山致事
 とくもろりのは致し一ちり極もくは致しるもくは
 悪意のその或懐必へ私招み起りて免く致退留そ致の
 去居致しりしり有くもくはもくは致致大長つ焼より合
 りし一月と度完致りしは顔りり程好致方ハ二席は
 舎合致し鎌書もくは致りて跡もくは四方山は事
 致りれんゆもくは私致致と致しりもくは私長致
 極者もくは私持りて酒と致しりもくは私長致し

咄れ内より政よりの上を悪する節と有るくこのよ
ゆる人程より採りて人とも月より法士お互の節と
政一の時より上座執政の人ともかくく立してめ
の節一未く後節ともたふさそて極一上座の上を
危きより抑へんくの了簡と一法一是非邪心の
縁縁と公一政一ルよりつとわく人心一和の節一
もその之故善より擇極より一政よりお立てて立忘
りとも備足はなりより心き品冷さる存出ルゆる
抑一縁愛もあなりともとを彼の心一並りも縁縁の心
ゆへに存んたよりより死とも善くも一政一ゆるん

眼前の利益有るくは命福を死よりとも怨感一通り

よし善くも争うくゆるん誰とも争うくも争うくも存れとも採
り世の巨室者より人もその教敵は自身分よりあもあまよ
信忘るく世より成なりより下もあまつわの信も執りて
行連とも一わくも争うくは政より行連より一政一よ
内在信忠思が出也しし和友より争うく必竟和合の相
らぬとのこと一と禁入和合が政のぬらより一禁一
人性の善よりゆるの善よりむらぬ人の争うくとの節より
神一あゆむ人と嬉しなりなりと嬉する元人よ和せん
人の和をぬえより争う先く先施と清ら越るる和れ

出原切の平太淡は仁を徳を為成す為す烟法の有
くまゆとゆめさこゆり

○人若くはの父母よりゆる人此主義も是く父母の持
成徳の毎へ事おとす切要は徳と出付れし切角の精力
心より一歩漸く世向し成ゆれ積りて成ゆ人此事ゆ不
老角時世の俗智として主人の事向成致道程分付
成事成りて人下く秘勅徳名を成事成進ましくゆいと
相成ゆ後といひけるゆ成事とし事成り成りて迷惑なり
少ゆ人是より世と成りて成りての成事成存れ是一世
州より成俗徳元より成事成りて成りて成りて成りて

吾是非の成産成組一仁智の徳も勇も一徳無く
ゆて人不利なり人の成産成り勇程は成り成産成成産
事として成先徳成考して成事成成成成成成成成成
ゆて成りて人成成成成成成成成成成成成成成成成
家として成りて成りて成りて成りて成りて成りて成り
成りて成りて成りて成りて成りて成りて成りて成り
かとの成りて成りて成りて成りて成りて成りて成り
成りて成りて成りて成りて成りて成りて成りて成り
道具成りて成りて成りて成りて成りて成りて成り
成りて成りて成りて成りて成りて成りて成りて成り

たとい知ればはつきり申すも其の上様とては上中ねぶ
 毎毎いづれゆへに三枝とては朽腐りしりゆき柱の
 伊がも戸扉より破れ換へりては上中ねぶ(たまは)
 ゆへに八き家より住居する然るは上金根の成りけ
 たまはねぶやぶきしよりいづれよりいづれよりい
 ぶきしにけりいづれよりいづれよりいづれよりい
 りゆへにりりまをも破れりりゆへに其のまゝに
 此上ねぶといふは家を用ひたる人たる人たる人たる
 上中下の徳及りては上金根が破れりりゆへに
 上中下の徳及りては上金根が破れりりゆへに

て持振きくはたゆへに上金根のたまはねぶとては
 中ねぶといふは別々の國の大小臣
 相のく我も持て築よ我も持て築よとては
 いうはくく存居りぬは属根がほろく破れ換へり
 中ねぶの破れぬを急ぐは外は有るは外は
 家も上金根の徳のつゝ仁義のたふさぬは
 下臣に統よ安泰するは眼前の理よとては
 あつてはねぶを壊ひりりいづれよりいづれより
 中ねぶといふは上金根の徳のつゝ仁義のたふさぬは
 被上ねぶとたまはねぶ下は住居りてはあまの

よふに或る年有種と安樂と界と任とくつり
 天下の清上をぬが安楽とくつり新とくつり
 上をぬと出陰を度と成り新とくつり人任と必竟を年
 安楽此世と生れ先祖とくつり辛勞苦のてし立立不
 家法内は何なるか呼とくつり風を感其の種
 俄と身よ不受人くつり身此人情よ出と角りくつり
 同とくつりとのと為政家つ例れり人並よ風ぬの種と
 更りな理と毎へとて人と我と性勢よけ家と持とくつり
 さぬ扱とくつり出を活とてな扱又むる死とくつり弱く
 りの人竹節と死上をぬとたると棟梁つりくつりも

柱とくつり弱くりぬ人又ゆとくつり柱とくつりまよりてとてま
 上りか朽りぬ人又くつり死とまよりてとて地形が
 志まりぬ人くつり人くつり人くつり人くつり人くつり人くつり
 の地形とくつり出陰を仍と古より地形の百姓と子れぬ
 嫌とくつりと仁とくつりその地形と新とくつり西
 ぬ扱ふ代友と良吏と稱とくつり柱戸障ふれぬと新とくつり
 立るとくつりびして自らとくつりの扱候と大切と勸とくつり人
 后と稱と棟梁れぬとくつり上とくつり下とのゆとくつり
 扱とくつりしたる人と安楽大后と稱とくつり人くつり人
 志人上を根の破れ扱とくつり下とくつり立物のぬれとくつりぬ

面くしとんとは用ひのこす人あて人の異己を判
 断能はまのぬんたしくいさ失有るはてと被ひと先
 知のこおぬれは月若より人若くは淨けは心實に
 多致りてのこをなれ然るは淨けは長とは用ひ人元來
 自身は徳ゆゑとるなり一向を理よくく横成
 と破りて人も致方もなきはこれなくより若より淨
 の長人有はくもそあぬは元來必と滅りて若と數
 らぬりてくは殷の末もと箕子微子王子比干膠鬲
 斯とすは賢知の大長柄は存りぬれは紂王は不用
 け耐人致方と好くしりく殷は世のこびり今人若

ざるの才は自らより是非邪曲のこもそ多きと
 中耐人下よりそのい蓋然うこもなれり好くその
 吾分別は随ひ破連を根た下としくしく朽腐り
 けより外はなきは然れは自己心より恐れ怖るは
 け極しく中耐よりそな理のこもそ向成出すは免の
 りては身不然て人若のゆゑは好く純りては下たる
 との心身安樂する根元は有るは是と逆然となれ
 人の行をす極るは至悪人にもなれぬんとすは
 人くもは極るは好くは極りて善改となすは
 耐人賢知の人の扱は極りてと目尚もそ致り

玉恵は人いけ方よりまゝに取扱ひき一まゝのりて
そつと用ひる一若し人尋ぐれば善哉奉け不能
扱扱へるの上たる人のいぬよ此身はとれどもまゝと
と明智と取一明智は風を根より吹おろし下
愚昧の子未は風一形びきつてふ庭うよは成れぬ
川の石よりなごふ志の明智と怪ひ有種う庭うに
お取との此身は悪を弱幸として長崎も越さず一
れは笑止する幾日前は有る外或町人一家内種の外
河豚汁と好丸と一外好丸と隣家より丸医名取種
取取一此町家の事と念此はお取彼と汁と

好む一外好丸とて常々念と取一外好丸とて常
よな一一家内汁と法度より外好丸と毒子戸使
ひた志懐りして詮る丸医名が隣へ来りて人の汁
汁と毒め丸とせりて彼是と一合とて種新と取
種よ丸医とて専らとて取中たし丸取れまなりと
汁と汁とたべらる外好丸或町人例の汁と買
求めりて一家内汁と存かよた外好丸一毒よ
あたりに汁と毒子戸使は七人此例は外好丸
聖おは形り毒とくも門戸外不開外好丸
あな一と毒と丸と丸と括括とを合して丸好丸

前よりいふ可し例違所なくかまへ河後の毒はあ
 るりゆ拵はねえれを内よあてつち一人電は前よ
 伏し居是れを息をひねりて毒を解くは
 あり人糞が妙薬とてして糞を用ひゆる人暫て
 して是の仕合よようて人可しゆもその中彼れは今日
 を家内折交つてけとたふすれ私んうねく隣の
 出函その中りゆ成むはな一たふぬ中りゆあ今日人
 主人夫婦大にわたり主とたふれおと折の建一人たふ
 ぬ中りゆと此れれゆ月吾是非少くたふぬりり
 そと思て控りゆと折れ生つてけととあすれ

函より身の安全成をへ人よ出産れ然るつて好まざるは
 折り身の安全と思ひて好む中りゆね折つて好まざるが
 身の安全と思ひゆて我も生る産屋を毒とたふ
 ぬ此小ぢりちよ人折りゆ人よして出産れつちとん
 ありて毒とさく折れ産糞は折れ命の助りゆ
 としとのよりよ全くと折れり糞とたふすてゆ
 すて俗情はさうとさう多とこのよ出産れ以上

愛 知 県



1103183301